

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 4 月 1 日作成)

委員会名	木造伝統構法小委員会	主 査 名：大橋好光
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (木質構造運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：鈴木秀三
設 置 期 間	2001 年 4 月～2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	木造伝統構法が見直されている。また、伝統構法で用いられている構法は、これからの木造建築を多様、かつ豊かなものにしてくれる。そうした観点から、伝統的な木造に用いられている構法の設計法をまとめ、設計の手引き(案)として、出版することを最終的な目的としている。	
委員構成 (委員名(所属))	大橋 好光(熊本県立大学) 岩佐 裕一(鴻池組) 河合 直人(建築研究所) 河内 武(清水建設) 木村 正彦(東急建設) 腰原 幹雄(東京大学大学院) 小堀 徹(日建設) 田中 裕樹(鹿島建設) 花里 利一(大成建設) 林 良彦(文化庁) 藤田 香織(東京都立大学) 古川 洋(安芸構造計画事務所) 宮谷 慶一(文化財建造物保存技術協会) 村上 雅英(近畿大学)	
設置 WG (WG 名:目的)		
2003 年度予算	250,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	委員会開催日は以下の通り、毎回 7 から 12 名の参加があった。 5 / 9 , 6 / 5 , 7 / 10 , 9 / 18 , 10 / 27 , 12 / 17 , 1 / 26 , 3 / 11
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 大会において、パネルディスカッションを行い、200 名弱の参加を得て、活発な議論が交わされた。 また、このパネルディスカッションに合わせて、伝統的木造建築の設計に関する技術資料をまとめ、大会時に会員にも頒布した。 また、定例の委員会においては、関連研究の紹介、設計事例の収集を行った。これらの資料により、最終目的である「設計の手引き」の原稿になるべきものが概ね収集できたと考えている。
	委員会 HP アドレス:
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 前述のように、パネルディスカッション用資料の取りまとめ、および、設計事例の収集などを行ったので、最終目的である「伝統的木質構造設計の手引き(案)」の原稿になるべき資料が概ね収集できたと考えている。
その他評価すべき事項	前述のように、大会において、パネルディスカッションを行い、伝統的木造建築の設計に関する技術資料をまとめ、会員に頒布した。